

明倫短期大学学会報告

月例研究会抄録

明倫短期大学学会月例研究会は、平成15年4月の第1回より開始され、平成19年度では4月26日の第25回から10月25日の第30回まで計6回開催された。30回の研究会における演題数は56に上る。

明倫短期大学開学時の平成9年より歯科衛生士学科研究会の形で開催されてから、明倫短期大学研究会の形を経て本研究会を継続開催し、本年は11年目であった。本年度より、明倫短期大学の研究活動を牽引されてこられた福島先生の後を新しいメンバーで引き継ぎ学会活動を運営している。明倫短期大学における研究活動がさらに発展するように努力するとともに、今までの福島先生をはじめ諸先生方の並々ならぬ意欲と努力によってこのような形があることを感謝申し上げたい。

(植木一範 歯科技工士学科)

第25回 (通算第108回) : 2007年4月26日 (木)

(座長: 木暮ミカ)

国際歯科医療論とフィールドについて

小黒 章 (歯科衛生士学科)

「国際歯科医療論」は平成20年度前期に開講され (30時間15回1単位)、本学3年制歯科衛生士養成課程選択9科目 (各1単位) のうちの1科目である。歯科衛生士学校養成所指定規則には7単位の選択科目必修が規定されている。国際保健医療学 (論) に関わる領域は多岐にわたり国際歯科医療論を包含するが、特筆すべきは本学の演習に海外研修旅行を含み、現在、69名の科目受講が見込まれるうち26名は実地の海外研修を希望、そのフィールドを目下、ベトナム、韓国に計画している。

歯科医療の近未来

歯科医療の中での一つの試み: 矯正

花田晃治 (歯科技工士学科)

歯並びの善し悪しは、顔の印象を左右し、他人とのつきあいに影響を与えるとして成人の矯正治療が増えています。

1. 審美矯正: 「歯並びが悪い」「前歯が極端に出ている」などの矯正治療です。歯はそろっており、歯肉炎も軽く、

審美的な長年の悩みが主訴です。口腔機能を正常にすることもできます。

2. 歯周矯正: 「歯がなくなっている」「歯が倒れてきた」などの矯正治療です。下顎第一大臼歯の欠損を放置したために、臼歯の傾斜・挺出、咬合崩壊が起こり、下顎切歯が上顎切歯を押し出し、正中離開、発音障害も起こります。歯周治療とブラッシングによって歯周組織の状態を回復し矯正治療を行います。ついでインプラント・最終補綴となります。歯・歯列・歯肉・口唇・顔貌の審美性はもちろん改善します。

第26回 (通算第109回) : 2007年5月31日 (木)

(座長: 植木一範)

歯石除去実習における 2年制と3年制教育の効果の比較

和田麻衣子 (歯科衛生士学科)

本学歯科衛生士学科は平成18年度より3年制教育へ移行した。そこで、歯石除去マネキン実習において2年制と3年制の学生の実習後自己評価および3年制の学生自己評価と教員評価を比較し、実習の効果を検討した。さらに指頭感覚訓練と歯石除去率の関係を検討した。評価の比較では、いずれにおいても3年制の自己評価が厳しかった。3年制の学生は明確な到達目標を自覚し、実習に望んだためと考えられる。また、指頭感覚訓練が歯石除去率を上げるのに有効であることがわかった。今後さらに検討したい。

色覚のエイジングー加齢により色の見え方はどのように変わるのか

木暮ミカ (歯科技工士学科)

人は誰でも歳を取り、それとともに身体機能も変化していくが、加齢による変化は個人差がある。また、高齢になるに従い個人差は若年者より大きくなっていく。これは生活の中で紫外線にさらされた時間の個人差が、年とともに大きくなるためだと考えられている。今回は色覚が、いわゆるエイジングとともにどのように変化するのか、そして眼に対するアンチエイジング法としてどのようなものがあるのかを最新のトピックを交えて紹介した。